

新冠町地域公共交通活性化協議会 平成21年2月16日設置



概要

新冠町は、海岸沿いに中心市街地を形成し、内陸に向かって長く伸びる2つの沢に集落・民家が点在しており、内陸部は道南バス路線により地域住民の足を確保しているが、利用者が固定化していること、さらに利用者数が極めて少ないため、運行赤字に対する財政負担が問題となっている。一方、行政目的としてスクールバス6台がほぼ町全域を網羅する形で運行していることから、スクールバスの有効活用や利用実態等に合ったデマンド型交通への転換、町外への移動を考慮したJR及び沿岸路線バスへの接続による効率的な交通体系の確立等の調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR日高本線(大狩部駅、節婦駅、新冠駅)
- ・道南バス(株)(泉線、厚賀・太陽線、町内経由2路線)
- ・スクールバス(6台、6路線)
- ・健康推進バス(病院通院患者及び温泉利用者送迎)

地域公共交通の課題

- ・高齢者等の生活交通の確保
- ・マイカーへの依存度が高く、路線バスの利用が低調
- ・路線バスの運行の効率化及びスクールバスの有効活用
- ・不便地域、交通空白地域の存在

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
- ・厚賀太陽線対象地域におけるデマンド方式の試験運行

策定する地域公共交通総合連携計画の構想(予定)

- ・バス路線の再編・スクールバスへの一般住民の混乗
- ・デマンド型交通の導入
- ・JRと路線バスとの接続改善



新冠町地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

主な調査の実施内容

協議会開催状況

5回開催

分科会等開催状況

4回開催(専門部会)

回数は平成21年度未までの開催予定

現況交通実態調査

・各種統計資料による人口、世帯、公共交通現況調査及びスクールバスの運行形態、乗車人数の調査を実施。(H21.4～5月)

利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)

・新冠町内(市街地除く)、日高町内(厚賀太陽線沿線地域)の835世帯に対し、デマンド運行方式の導入やスクールバスの一般混乗等に対する意向等の把握を目的としたアンケート調査を実施。(H21.9月)

厚賀太陽線沿線地域におけるデマンド方式の試験運行

・本格運行時の利用者数や効果の予測、課題を抽出するため、試験運行を実施。(H21.12.14～12.25の土日祝日を除く9日間)

予定している連携計画の内容

デマンド運行方式の導入(実施主体:新冠町、実施時期:H22～)

・効率的なバス運行体系の確立を目指し、路線バス厚賀太陽線に替わる交通手段としてデマンド運行方式を導入。H23の本格運行に向け、H22に実証運行を実施。

スクールバスの活用(実施主体:新冠町、実施時期:H22～)

・公共交通空白地域解消のため、スクールバスの一般混乗化を図る。H24の本格運行に向け、H23に実証運行を実施。

健康推進バスの活用(実施主体:新冠町、実施時期:H23～)

・スクールバス運行時間帯以外における路線バス静内泉線の代替交通手段として健康推進バスを活用。H24の本格運行に向け、H23に実証運行を実施。

乗継機能の強化(実施主体:新冠町、道南バス(株)、北海道旅客鉄道(株)、実施時期:H22～)

・デマンド運行方式やスクールバスの活用などの新しい運行方式の導入に当たり、道南バス日高沿岸線やJRとの乗継ぎ機能を強化。

自己評価のポイント

アンケート調査、デマンド方式の試験運行等により必要な調査を行うとともに、法定協議会において専門部会の開催も行いながら合意形成を図っている。

二次評価の方向

次に掲げる点についてアドバイスする。

- ・町内の交通体系全体のあり方をグランドデザインし、路線バス、スクールバス、健康推進バスの役割分担を明確にした上で連携計画を策定すること。
- ・デマンド運行方式の導入等に当たっては、既存の路線バスの取扱い(廃止の適否等)を明確にすること。
- ・自立のかつ継続的な事業となるよう、公共交通利用促進に向けた取組みの実施も検討すること。